



地方扱集成

五

3係7
3.947
5



門下係 3
番 347
卷 5

地方扱集成後篇卷之五



目錄

淨觸之事

詠国 淨觸之事 寺社五穀豊熟祈禱之事

并 施餼鬼之事

寺院出家山仰々人別書出之事

南鑑之事

寺院地坪等之事

在方より江戸に出居候との御村之事

道中御觸之事

寛政三三年

異国船之事

第種締實之事

京都誓願寺勸化之事

同四子年

異国船之事

同五七年

同断之事

同断之事

大水汚善法場之事

銀座之事

特賣之事

同断之事

寛政六年

酒造職之事

無檀在本寺僧之事

遊外上人廻国之事

小金野山麻栲之事

破船浮名物沈行物之事

朝鮮漁船漂流之事

日蓮宗不受之施之事

酒造天明六年追造之事

御鷹燭多札之事

朱座之事

洞座之事

撞鐘再興無用之事

寛政八辰年

異国船之事

海上風風之事 糸挽船之事

同九巳年

金銀出入不及裁許之事

徒黨之事

領分由過出代官所人数入用之事

関東通り之事

慶長以来吹立の浪代浪之事

道中割増之事

領分人数入用の言古互の助合之事

平波浸波除石之事

川階新田仕立之事

賭の湯制禁之事

五海道人馬先觸等之事

酒造及十分一率出之事

酒造定例之通て致事

田租之事

唐船扱荷之事

田租見分之事

おろしや之事

白米在方分江戸出之事

仙臺通寶之事

酒造体拂之事の七造之事

魯西亜之事

孝行奇特人書出之事

海岸舟見分の上予當之事

田年田置に不及之事

追加

質田地裁許格法之事

以上

地方报集成 卷之五

寛政元百年

一 諸国 御朱書の寺社ニあり五穀之熟ソ為民
安穩之儀 一統ニ祈テ侍テ了名ト 作出テ名
右ノ語ニテ古語ト云守札護符根ノ求認仍ト儀
勝手次第ト波事

一 年 浅間山焼奥羽飢饉疫癘流行且関東
出多平越火災ト下々多危事ト云少少ト名

古傳の傳系知恩院上母新田大光院奥州
岩城高橋院羽列唐因大督院高西村仲藏院
中層岡平水田向院右寺院二四二社後院儀鬼
御形二被名被 傳付右推引料一々々
根十枚是より名其後三寺御列成止書付
厚以 恩百々 傳付偏ら名有教兼并 諸々
御系平及敷く此の事之冥加く書ら余二抽冊儀共
勿偏くするに守札兼護符札一紙施くとの在り
之儀共向志の百姓共は移引三紙共賜り此等との事は
小 御系常々寺社守札配り亦御偏く事は七之五

くし名は 傳付く御系之無く若守札配成存
しものもゆつ志徳多き事へくは御系共は書付被
右御系儀成りとの儀無く以率心得遠無く紙三書成り

寛政三戌年正月

一 書目年々一寺院出家山伏人別本寺又ハ御形共
此等五集書成り之月限あり出下り

但名常々付若生國語之事

本寺御形共一々寺之儀共は料共出代共私儀共
所至地所ハ集書共出下成り

西十二月

追加本寺の御紙等 一ヶ寺無し 此後
了了達也

同年十月

一 世度通用の古紙後の上銀南條と當銀の
紙等と歩判と作付の右と歩判八ツ金と
銀文銀元紙等と時と右の通と無併と
了了達也

一 右歩判判と右紙等切替の係是又金と同紙
了了達也

一 此歩判包の儀夫又字紙と遠の紙紙包

一 歩判の右其通の心得下は右南條紙等と同紙
通用の紙と作付の右無併と通用可致也

右の通用の紙と了了達也

九月

右の通用紙九辰年右紙の其係も通用の係
右の紙西三丁の紙は右紙と通用の紙も
有し由右の紙は右紙の紙は右紙の紙は
金紙の紙も右紙の紙は右紙の紙は右紙
右紙の紙は右紙の紙は右紙の紙は右紙

追て武庫銀下取らるる人金と同様時と書協志
元志と改む右國の山代管山年貞銀と申論
其外とも三徳細谷根細二事一なる場可有
山とも向後其時と書協志金武庫判書と根細と
同下賜の次第と交易と申論
右と録山料と山代管和以去既土地及石限は和
二と録志の也

一 御前下取らるる寺院と坪敷並年書山門其外
遺能く健坪島岳山と云ふ名敷或ハ向洋之屋
破漏並等と録と其建方と持積も徳経島國

二 山代山出山年

同年土月

一 在方ふ山代山出山年との取らるる山代山門其外
活用金物調形並御り山代山門其外と云ふ名敷或ハ向洋之屋
破漏並等と録と其建方と持積も徳経島國
山代山出山年との取らるる山代山門其外と云ふ名敷或ハ向洋之屋
破漏並等と録と其建方と持積も徳経島國
山代山出山年との取らるる山代山門其外と云ふ名敷或ハ向洋之屋
破漏並等と録と其建方と持積も徳経島國
山代山出山年との取らるる山代山門其外と云ふ名敷或ハ向洋之屋
破漏並等と録と其建方と持積も徳経島國

出たよの多限私原等しよのり當成年より素
子年近三ヶ年之間に取出しこありてハ由料先小塚
寺社原ありしものハ原書より由子書と名付る所村
被作付由万石以上は取分よそのハ其原を門後
原村中付て有し由去在りて去前よりより去四年
迄ハ内當地ハ由原由との限ハ當年算年當原ハ
出たよのハ取分由るも不及沙汰ハ江戸ハ生よ者も
預出りて農業も仕別り力事ハ由原以味ハ上付區
荒原等と可事事も可有し由在りて既町申ハ
由原由りて原村ハ後原由りて由基定年以り

三河海島より上海子意ハ由原分よその荒原多り
場ハ其成文ハ他国ハ由原由原ハ宛て後事ハ由
具又由原ハよの川海島たとハ帳面ハよの由も
山海ハ原中由原ハよの由人由原由原ハ由原由
又兼ハ由原ハよの尋中ハよの由原ハ由原由原
後ハ由原由原ハよの由原ハ由原由原ハ由原由
由原ハ
一 由原由原ハ由原由原ハ由原由原ハ由原由原
中由原由原ハ由原由原ハ由原由原ハ由原由原
由原由原ハ由原由原ハ由原由原ハ由原由原

右三週万石以上一厘に水達し名に存其旨は
米之滋治京船一厘にも進米多く陸地五引
有之船に名船子中も立油引船之有之早も各勤
涉順之旨京船と較し早免船海之極子懸練統
且其用之引つる不等閑吉にも名に在之
俾し心得有之事也

一 菜種油實其外要用之米は格別其米一分
遺一米穀之勿論 麦之外雜穀も其穀物
酒分多く作り出之極い節一出水後其米中
其成地面は名程更雜穀 之も早も存其旨は

一 米一付也

一 兼之 作之 酒三分一造 活之 炭重之 水改道
隠造等無之 根情之 心付 名其 國極之 三分一
造より 減 少中 付之 備之 勿論 濁 活 制 禁 厚
既 地 敷 揚 子 治 等 一 中 付 之 節 一 道 造 隠 造 亦
一 節 一 付 之 子 重 欠 下 中 付 之 節 人 志 不 辨 一 中 付 筆

寛政四子年七月

一 米 勘 掣 願 等 兼 治 考 據 取 去 中 年 類 統 有
治 國 御 化 一 備 旨 之 旨 從 公 儀 七 沙 根 以下
願 一 在 治 五 週 引 御 化 而 先 有 治 府 四 年 之 旨

不_レ々_レ奉行等し_レと_レ迄_レ以_レ舟子組浦_レと_レ分_レし_レは
作_レ付_レ其上_レ海_レ邊_レ備_レ向_レ宛_レ取_レ之_レ比_レ進_レて_レ出_レ向_レ備_レ有_レる_レは
中_レ以_レより_レ迄_レ廢_レ止_レ付_レ從_レて_レ出_レ向_レ整_レ之_レと_レ右_レ等_レし_レ出_レ越_レ急_レ
之_レ後_レ海_レ邊_レ備_レ有_レる_レと_レも_レ程_レ又_レ少_レ子_レ學_レの_レ正_レ
作_レ付_レ出_レ越_レ急_レの_レ方_レ何_レ進_レし_レ程_レ強_レと_レ右_レ心_レ得_レ子_レ當_レ農
重_レ之_レと_レ年_レ付_レり_レ事_レ

三月八日

一 此度安房上総下総相控伊豆五ヶ国海邊の村々
沖用之備有_レし_レ程_レ方_レ進_レ之_レ分_レと_レ作_レ付_レ出_レ越_レ急_レ

此等_レ地名_レ村_レと_レ山野_レ、_レ根_レ子_レ村_レ役_レ人_レに_レお_レ給_レは_レ備_レも
有_レる_レ、_レ以_レ日_レ至_レ瓦_レ支_レ等_レ中_レの_レ如_レ在_レ急_レ海_レ邊_レ急_レ農_レ
の_レ分_レ出_レ越_レ急_レの_レ代_レ官_レ和_レ隊_レ支_レ隊_レ至_レ地_レ分_レ分_レと_レ中_レ隊_レ各
に_レ上_レ手_レ備_レの_レ

同年三月

一 異_レ五_レ船_レ漂_レ流_レし_レ子_レ當_レし_レ備_レ前_レの_レと_レ海_レ邊_レ事_レは_レ十_レも
行_レ届_レ兼_レ出_レ場_レの_レと_レ有_レる_レ、_レ以_レ日_レ進_レ急_レ急_レ備_レ向_レ之_レ備_レ
と_レ作_レ付_レ出_レ越_レ急_レの_レ方_レ何_レ進_レし_レ程_レ強_レと_レ右_レ心_レ得_レ子_レ當_レ農
備_レ之_レは_レ八_レ姓_レ々_レの_レ子_レ當_レ無_レ急_レの_レ方_レ何_レ進_レし_レ程_レ強_レと_レ右_レ心_レ得_レ子_レ當_レ農
右_レ心_レ得_レ子_レ當_レ農_レ方_レ調_レ練_レ兼_レる_レ備_レ之_レは_レ八_レ姓_レ々_レの_レ子_レ當_レ無_レ急_レの_レ方_レ何_レ進_レし_レ程_レ強_レと_レ右_レ心_レ得_レ子_レ當_レ農

多七條く其中心の遠くは山科和歌寺社
山代長尾至地民本子腰板在文三平城

一 今被園車少川の山普請舟比定言見知るは
幸一同滞見知る追報坊敷場亦あや歌也
山科も石瓦上管旨考考敷出方敷掛り役人
此園池系諸事一書及又山科の山普請下程云
外諸屋亦石瓦中一石敷の且山科普請中三徳
竹本石瓦外山普請諸事一諸色高巻物石敷の
右通山科夫山代官私帳夫帳至地及石平屋
一 灰吹浪其外浪浪敷浪屋瓦下浪入用之書之

浪屋の賞後他亦之賣買被有為し各在永
年中七五納の浪通年浪屋の瓦切の少き浪
赤字の懸焼亦の場亦之夫通用浪亦未判一
浪具敷亦焼焼し有るは浪屋の瓦切の浪
浪得遠一之浪急交一書也

一 情要賭の揚屋の屋敷の古河制林亦の浪今以て
子業止情業又夫物為結の揚屋被るもの有る
統の浪の年一書也亦の浪捕縦山科亦の浪の浪
其亦の山代官掛合の上石島浪亦其は浪の浪
地代の山代官掛合の上石島浪亦其は浪の浪

頭人病氣死又夫外沙利有踏子方之銘物
物持知多志親教或八村役人等白帶子一方
其物之方之書持在出之獲是等之銘物在御用
限之事之自余之例之志之宗如官其派も村人
厚之千一付之事

右之銘武藏上総下総常陸之白口季并月浪打
有之村之土地分之年一坪也

一 浦口之ありて物船破折有之時浮舟何物沈之何物
沈之方之あり其荷主方之志分一之何物之方之
何物之何物之方之志分一之何物之方之

浦島札三有之分一之割合志之志長尾之在沙江戸
其外越之町方之志料之其下之在行又夫也代官
私之志之土地分一之寺社之志之志也

一 長門石見出雲肥前筑前志後能分浦之之御舞之
徳和之之志流之志毎毎之事之志之御舞之
御舞之志之志遠在志流之志危難之志之志也
故て石見備前也有之中二部之地方之石直寄也
志之志備前也有之志之志志流志流之志也
志之志志切之志之志志流之志也

とく海に濱に於ては名不伝無慈悲の心
此中亦有一の志願し外に事この時之對
異國の偏に於ては名不伝無慈悲の心
之能等無一の志願し外に事この時之對
不念之事この志願し外に事この時之對
之入念の志願し外に事この時之對
右外に於て中國節浦の節に於ては名不伝無慈悲の心

一 上総下総國村の百姓は日蓮宗不受不施の傳法を
習信其此の旨傳人も勸之重之此は其の旨

其の旨の亦有る道年之及も不受不施
僧信其科之行る不存角之志新門徒又志
内信心ありて名聞と付存て此は其の旨
之僧と日蓮因縁の旨教の旨或ハ何し其
之く在に加りし其の旨也夫之旨法年竟
其の旨の志願し外に事この時之對
農事と志願し外に事この時之對
追尋等極其の旨の旨也夫之旨法年竟
佛道之位に於ては名不伝無慈悲の心
之内不文の旨の旨也夫之旨法年竟

公儀より宗門之外帰後之儀御之旨よと
得之旨事足る儀之旨是也此儀能く未幾御
宗門へ持方未幾御旨也

存て通中儀へ上志重中不受之儀へ敷く宗門
おたもちの旨有らるる者人志之旨一其旨者宗
巻科之旨行は且在在國之旨も之文之儀へ御志
勿論之儀也何宗之旨次是比之旨の儀は之旨
す一九の百一十部之旨有らるる旨也其旨は其旨
所無也代官又志御主地之旨子之旨中へ存る旨
以料志之旨代官私儀志御主地之旨也其旨は其旨

一 諸国所遣之旨天明六年奉以奉と遣事は教諭志
賜之旨所遣之旨其旨外所遣之旨勿論儀候旨
所遣之旨所遣之旨其旨外所遣之旨勿論儀候旨
其旨外所遣之旨其旨外所遣之旨勿論儀候旨

同 年 九 月

一 法皇御旨法皇人へも子先報生人へは儀候旨其旨
其旨外所遣之旨其旨外所遣之旨勿論儀候旨
法皇御旨法皇人へも子先報生人へは儀候旨其旨
其旨外所遣之旨其旨外所遣之旨勿論儀候旨
其旨外所遣之旨其旨外所遣之旨勿論儀候旨

五体二在在、よのち地を改め新焼平札引替の
若しは是文二好其意の

一 地を改め焼平札引替判鑑を境の百正と云報生
人共の寄附を以て報生人とも正持し焼平札引替
引合を寄附して先達を以て領地を本焼平札引合
若しは是文二好其意の
是又中定と無併沙法五人是云云也

一 亦足由附取とも云報生と報又焼平札引替引合
引合判鑑引合子引合と無併持其所、為至
子と云云也

一 焼平札村方を以て換ふよ云云と云云と得也

一 湯島い第一の有りたる、此處を改め捕了寺と
申出、其院を承り於此、是云云と云云と云云

一 右通志得名主定掛札を徳至と云云と云云、
其の有し、以て右曲事也

寛政八年

一 朱筆書札朱筆書札を以て領地を以て領地
領地を以て領地を以て領地を以て領地、
奈良堀へ仲買し、よのち中村の地を以て領地、
是云云と云云

曹州仲實、とのとも八掛札書、汝の書、のり書、
右仲實、とのとも、内、手、汝、書、實、法、の、
下、汝、の、向、端、小、実、年、の、の、八、江、戸、年、大、夜、年、座、
内、の、り、禮、札、法、在、年、是、年、法、光、堂、九、年、八、年、座、
包、の、後、の、書、法、職、人、の、も、書、の、残、の、も、在、包、の、
後、の、同、職、の、の、の、讓、法、の、傳、之、書、の、の、の、上、
出、の、紙、交、示、内、の、書、費、の、年、の、紙、中、の、の、の、
以、味、の、上、急、急、の、中、の、の、

同年八月

一 洞方子孫、神、牙、明、和、三、成、年、大、夜、書、洞、座、相、

妻、法、国、の、出、洞、一、子、の、引、續、子、也、の、名、國、洞、山、稼、き、
妻、の、分、八、年、中、一、出、精、一、年、洞、の、方、試、の、敷、八、出、洞、
少、の、り、も、の、書、子、被、大、夜、洞、座、の、書、一、年、名、を、書、
在、洞、の、紙、右、洞、の、後、大、夜、書、の、限、の、の、書、志、不、行、座、の、後、
七、五、字、の、書、世、成、江、戸、書、の、の、の、の、右、洞、の、紙、不、相、妻、
少、有、洞、是、國、書、第、一、古、洞、切、屑、洞、敷、十、の、の、の、
引、信、書、書、振、の、の、園、八、冊、志、向、端、在、洞、の、の、の、江、戸、
表、の、書、一、揚、子、庭、分、之、在、洞、の、の、書、法、一、の、の、
八、是、近、の、書、大、夜、洞、座、の、の、書、一、の、の、可、の、後、の、
在、洞、の、の、書、大、夜、洞、座、の、の、書、一、の、の、江、戸、の、の、書、
七、港、紙、の、の、書、

第...年...
明和三年...
山出洞...
洞...
被...

一 法...院...
其...
造...
右...寺...

一 異國船...
洋...
今...
右...事...

同年辰月

一 松平政...
其...
唐...
子...
送...

一 漂着之异国船ハ解船ニテ一在船組ノ船下積ニ
一 舟一送去ル事

一 右船海上沖開帆ニテ事

一 瀬戸内ニ海上風出ル事以料取ル天ニ事亦瀬ノ
一 舟一攪船及右左船引送テ下ル事一 雜風

何国ハ全漂着ル事雜船ニ押テ左邊ニテ一子連小舟
若公被出情浦燈船有波船漏ニ損一也出来
以テ唐人陸一上テ以備志一子被別船ニ事至修理
旭望園事流一役人中一左邊ハ出帆有波一在
船乗以料去出代長取所去隠主地及一海軍

右船在沖下事

一 沖月船無難ニ浦燈船ハ其も出帆追テ四ハ事船
付若玉漁船ニ事左邊人乗船ハ追寄テ一在
一被以事

寛政九年己巳月

一 异国船見テ了若夫左邊中右定致ニ事年亦船被
沖ニ被引中付有テ被以事追年漁船被
追沖名言若玉船見掛ル勢一沙法有テ事
右邊以事一也余一也得テ事也

同年九月

元佑元年... 未... 二月... 三月... 十年...
間人馬... 割... 中山... 招... 守...
義... 日... 中... 千... 詳... 位...
例... 使... 通... 水... 倉...
道... 甲... 中... 回... 新... 下... 法...
奧... 列... 中... 白... 川... 左... 准...
是... 未... 月... 年... 十... 年...
人... 馬... 之... 錢... 割... 為... 增... 法... 中... 法...
中... 協... 官... 三... 得... 之... 名...

寬政九己八月

一 願分... 進... 料... 有... 願... 於... 成... 而... 若... 人... 數... 十... 入...
平... 若... 夫... 當... 化... 中... 親... 名... 及... 近... 引... 以... 時... 分... 聖... 成... 實...
より... 平... 達... 以... 旨... 本... 德... 二... 人... 數... 三... 名... 親... 名... 享... 保...
十九... 年... 万... 石... 以... 上... 之... 願... 之... 達... 有... 一... 以... 右... 之... 法... 者... 夫...
願... 之... 心... 好... 之... 有... 一... 事... 二... 三... 之... 年... 一... 第... 一... 有... 用... 八... 稀... 多...
儀... 之... 心... 有... 一... 其... 上... 年... 久... 矣... 古... 誠... 子... 二... 三... 之... 法... 又...
亦... 達... 之... 儀... 之... 心... 小... 身... 之... 向... 一... 知... 行... 下... 手... 人... 數... 三...
編... 行... 履... 之... 心... 一... 五... 五... 二... 助... 力... 三... 三... 節... 勿... 備... 之... 心...
寬政十年

一 東海道... 回... 詔... 也... 船... 之... 儀... 聖... 冊... 聖... 風... 以... 漢... 下...

下総国漕子漕近、自入漕、致漕、ハ左列年俣
漕、ハ外、存、在、漕、ト云、ハ、也、物、ハ、在、漕、ニ、在、ル、也、
波、障、ハ、石、壁、有、リ、由、之、以、通、年、及、古、彼、且、船、多、ク
船、掛、リ、ホ、ト、難、義、其、上、以、波、ハ、其、去、漕、因、親
入、漕、ハ、年、ハ、ホ、ト、波、障、漕、ト、ホ、ト、兼、以、其、舟
高、ホ、沖、合、之、勿、荷、漕、因、之、ホ、ト、間、之、弱、被、船、之、向
打、ホ、漕、在、親、時、宜、之、ホ、ト、人、余、之、拘、リ、子、容、易、
儀、舟、在、漕、之、儀、舟、因、及、舊、儀、振、合、之、在、入、利
陸、奥、ホ、陸、國、系、羽、別、至、錫、銀、以、料、ホ、且、在、國、之、
形、不、有、之、且、米、該、產、物、于、外、之、也、
東、海、海、箱

運送、江、波、以、分、言、割、出、金、ハ、年、一、以、年、ホ、在、漕、舊、儀、
年、年、之、言、之、物、ホ、ホ、其、儀、漕、取、知、取、也、

他、本、文、ホ、在、漕、以、ホ、且、年、其、外、運、送、之、ホ、ハ、西、限
有、儀、言、之、也、言、海、也、新、田、大、島、細、書、舟、之、儀、也、

一、於、國、之、新、田、細、之、儀、之、舟、ハ、三、年、保、其、在、水、年、中
之、作、也、親、也、有、之、儀、漕、玉、川、第、之、儀、連、之、押、押、リ
水、江、西、也、其、也、自、今、以、後、該、國、大、水、料、親、取、
之、限、川、通、リ、ハ、附、寄、洲、之、新、田、ニ、以、在、之、儀、志、
不、及、中、之、儀、其、疏、等、推、出、之、儀、該、儀、儀、也、
追、之、
生、之、儀、不、川、拂、ハ、其、上、附、洲、ホ、其、也、
心、正、也、

多人馬... 家中... 日限... 及人... 其... 知...

方... 一... 一... 送...

一 酒造之儀只今迄造事より其言を并梅言ふたし身
先出之事一天明八中流の長移く造り言ふと附分
書出の向も多少名地を以て動り以て名を又承てと
遠送東是迄も格別減の造言造言其の者
多分の統今般之旨類の書ゆ事實遠般
次更何意にも不承の事尤も全脚酒造の儀者
年々量出の陸の造言の儀も受て是も有るに流
有る迄造言書出の書遠多くは其の詮あり
色ありは却る妨多き事一あり予を辨る
儀言の事酒造の年々其の旨今も年々前々

言の事其言の分限の意一実を得の造言の
儀を改る中ありは不櫻の形下り有るに無故して
造言の階級より多し其子細有るに及甚儀ゆて是
其儀の事定其行の上中より下り有るに在統の料
志也代官私院其地既其寺社既尤も其言
其隱造の儀志涌者其向言実整可中其
一 去年其遠の酒造の儀年々迄造言及河法の造言
先其及言其右の河法料私院寺社既尤も其言
了は其言

文化元子年

一

一 當秋他方運上之 於此種所 勘固至後也

作付の在りて名 和以和 分り 享保宝曆安永之

至也 作付の振上と名 當秋收納し 十分限之 意

一 統圓敷之也 作付備之 是石敷し 之の不正

作付の務く 以て 收納高之 趣 一 固石敷は 是也

被作付の石敷之 備志 女子 作付の法 諸國他方 其趣

其趣の旨 宝曆安永之 度 振上之 名 分限之 万石以上

例年 江戸表 且年之 月二分 是古 減之 後之 意

一 唐船 振上之 係年 是年 全度 之 中 船 運 年 不

正之 高貴 汝之 有之 鑑 粗 振上 之 趣 固 以 其 海 陸

浦方村町 間道 節且 船中 之 趣 怪 友 之 物 之

名 是 之 中 之 不正 之 意 物 有 之 名 子 是 之 物

人 共 其 和 之 當 是 之 物 之 振 上 之 意 對 下 上

領 至 長 崎 舟 行 而 左 取 之 舟 行 或 以 代 官 願 至

地 民 上 之 也 其 意 至 之 料 等 之 趣 亦 之 其 趣 之

及 人 共 之 意 之 物 對 下 せ 之 海 之 〇 縦 同 敷

たり とも 海 之 趣 之 〇 縦 同 敷 之 意 之 趣 之 意 之

多 分 之 意 之 趣 之 意 之 意 之 意 之 意 之 意 之

一 振 上 之 意 之 趣 之 意 之 意 之 意 之 意 之 意 之

物 附 送 之 意 之 趣 之 意 之 意 之 意 之 意 之 意 之

と始末を尋ねる所ありて後、
右、よの大車形取の書物、
之厭心を以て押す海船、
少獲て之事

一 薩州より、白糸紗綾、
對別より、遠砂喜亦、
之上、解、
宗對馬書及人送曲、
持返り、
別、
岩、
子、
夜、

若物、
右、
船、
右、
村、
高、
一、
事、
瀬、

大坂町奉行 三右衛門 義隆

一 口為事不陸為之知も前文等同様也

一 三ヶ年迄の子板或ハ割リ張リ之有るは陸子板

無シ子板若不正物之准一也

一 不之口為事不陸為之知も改之て為人とも一厚

陸為之知も若又口為事不陸為之知も為人九ハ

急急三ヶ年一也

一 改方之付迄又も有るは長崎奉行と向合

下之を向て事不陸為之知も長崎奉行分室

不廻之儀也之有るは若其名も海改方出重

下之付迄之在在事の上之も改方等余一也

以て陸為之知も一也

文化二五年

一 諸國概陸沙用事 當時有言之分存是分當冬

来秋迄の内代官以事定之方之内と云ん事は海も

之有るは其初之在沙用之岸官以事定之方

係也之縁之願也固執之分も見至る属也之有るは

海心傳也

一 先達ヲ口シヤ船長研ノ海東一節一 通事也之儀

也叙也下之儀也月日也之儀也之儀也

七

有、水端、降、五、如、是、也、及、乃、沙、法、の、ま、て、い、
れ、る、日、本、の、一、切、の、法、の、層、素、人、の、及、
中、た、と、い、関、心、の、も、一、切、の、法、中、の、最、高、の、者、
因、法、の、門、徒、の、ま、の、有、り、と、い、白、年、の、五、と、う、平、本、主、
在、紀、伊、交、平、井、の、在、在、奥、州、第、一、関、八、州、
中、料、夫、也、官、長、私、以、之、以、主、院、及、の、系、編、の、

文化三百年

一 當、月、四、日、津、戸、芝、東、町、の、出、火、の、事、は、以、り、若、年、
屋、火、多、分、被、敷、焼、傷、者、百、十、名、程、有、り、若、年、
子、支、也、白、年、拵、庭、の、事、は、又、之、を、説、き、中、の、有、

在、方、白、年、出、賣、上、の、法、有、り、其、等、場、町、第、一、人、
石、橋、津、屋、の、町、に、在、り、其、等、場、の、中、に、在、り、
傳、へ、同、人、子、子、と、い、ふ、の、と、い、ふ、法、は、以、り、達、に、在、り、
お、過、り、白、年、の、賣、上、の、法、は、以、り、名、白、年、賣、上、
屋、に、お、よ、の、八、時、に、在、り、其、等、場、の、賣、上、の、法、は、
在、り、説、き、関、東、第、一、料、の、出、火、官、長、私、以、之、以、主、院、及、
の、事、は、又、之、を、説、き、中、の、有、

一 松、平、陸、奥、の、法、は、以、り、通、用、の、法、は、以、り、極、角、
又、孝、六、仙、臺、在、り、其、等、場、の、事、は、以、り、在、り、因、に、在、り、
當、年、より、五、十、年、の、内、に、法、は、以、り、在、り、其、等、場、の、事、は、以、り、

領分陳通開の答に於て是れ心傳遠外々にて
無用いふに之の有らざるに料志に於て是れ官
陳屋私取志公事方山事定在事以一月事完に
て海也、隠至外方事知にに於てハ以味上急を
事付に於て是天明存年事福氣に在清清
至月錢と云文に九去りいふにあり有に
事付に於ては依に追て改に之の事至
右清清文七有に分錢に之を扱に以
て錢に限り以又去甚包亦五扱に分ハ其以
其包去に限九に之急を事付に

一 奥州能澤山之内を通用清隠に以て
之の有らざる事、之依に之を右肺に取業に
之の能有らざるに神去之為事、以て官陳屋
私取志公事方山事定在事以一月事完に
若隱至外方事知に以味上急を事付に

其九月

一 近來米價下並月世上一月雜儀に事付右所
弟穀浪山に事付、徳国酒造人九ハ、及中体
拂し、其外是道法在、事付、之の事も勝手
此等酒造法世に於て、向衛酒造人

言是上之定言之云物仕入古様云々

一 禁度米價引上之為之國素節在方圍籾之儀
百姓仍舊籾之肉費上之月事定之所、以國達
石粉、油、鹽、並同人下代也、此等諸儀、以之
古儀、元是、宜考市古儀、見合、上之重候、致
お對實上、一秋、年、油、公、同、人、下、代、也
在、之、お、御、多、仍、舊、籾、之、肉、三、費、後、之、お、八、及、對、後
以、能、分、村、之、也、百、中、月、事、定、之、所、以、重、候、致、不
古、様、之、一、費、後、之、お、八、及、對、後、

一 法國城後、西國、年、有、合、之、儀、在、今、之、去、己、年、より

當秋、近、之、月、也、代、長、也、事、定、之、所、之、月、之、事、元、去、後、可
有、之、其、御、去、完、候、元、西、年、之、儀、也、後、之、儀、也、願、也
岡、米、之、分、も、元、是、儀、候、有、之、名、也、冬、中、古、達、言、云
程、又、當、秋、の、米、元、是、之、月、之、事、定、之、所、之、月、之、事、元、去、後、可
一 達、言、云、也

一 長崎、嘉、永、三、年、唐、船、之、儀、方、二、所、也、其、儀、海、軍、干
飽、稼、方、有、之、此、番、後、度、之、儀、上、使、内、事、陸、軍、是
也、將、國、海、軍、所、知、浦、右、舟、漁、師、等、村、役、人、亦
右、後、方、掛、り、合、之、之、の、以、出、也、其、儀、方、有、之、以、由
其、旨、より、也、其、儀、云、也

漢代百五達山事

一 願分海唇海之陽水先達言中以應字之志
九里村之區物見分之上國新防方之俗
委細中皆以治身也有一以先私以之海支隊之
元斗の言はは即身備揚而等造二六字達
以柔程又与傳加助年子當一平身勿得為之
湖上之船掛之慈者故揚而支備方在間也
不若之漢口又志水掛古如揚所ハ一子板
無一板下下付の事要ハ中ハ新規之志之志
大筒揚未設多ハ平後之志ハ新變海以

飛海言凡應ハ口下之承命在之孰陸奥の
後後常陸浦之故分等有一而之之志

文化丑辰年

一 先達命乃石以書之而之子丑古年分國初之儀
志字子及國言ハ昌陽子治身ハ志方之志

追加

一 想言百姓箇地年季想以後合子海方在席ハ
儀海也之其人今之志夫金三子季五六十日七八
十日之目切之平身也一慶之見後ハ幕也

若公田細流尾一五願と云ふは流尾に在
下は流地持し方々田畑配分い年一又志
年季賣賃地等も流尾の分は其後二年
流尾に在りる流地は其の分は其後二年
分計り右は流尾に在りて中一付年事

一 自今八箇地並辰島割引し種志の事取在至
辰島組隊等加刺すは八箇地等と云ふ事
取すをりし事も向流尾小作と事賣是割
引し種志小作全と種

但是より高利を欲すは割引すは利安に候儀

いふは流尾に在りて對辰島多と云ふ事

右通照す事多し若達中へ業有る事と云
曲事一との也

享保六年三月

右箇地は簿書面より多し故に向流尾と云ふ事
井上河内と云ふ事向流尾に在り

江上河内
右箇地は簿書
簿書簿書
簿書簿書

